

## 金文淑さんの逝去を悼んで

関釜裁判をおこされた挺身隊問題対策釜山協議会の金文淑会長が 2021 年 10 月 29 日に逝去されました。享年 95 歳でした。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/cf1d9139cd2c8e2588dee059ead59739161071ed>

金文淑さんのパワフルで裏も表もないはっきりした性格を懐かしく思い出されます。被害者たちを掘り起こし、関釜裁判に持っていった彼女の情熱とご苦勞に思いを馳せます。私たちは、原告たちに出会い、関釜裁判に関わったことに感謝しています。心からご冥福をお祈りします。

花房恵美子 花房俊雄

---

## 金文淑さんの思い出

山下英二

「戦後責任を問う・関釜裁判を支援する会」が立ち上げられ、とてもエネルギッシュな金文淑さんと出会うことが出来ました。流暢な日本語でお話しされ、多くのことを学ぶことが出来ました。下関裁判所に向かう車内では、口頭陳述を控えたハルモニ達は、緊張のせいでしょう、余りお喋りをされませんでした。しかし、帰りの車中では軍歌や唱歌の大合唱でした。そんな時も金文淑さんは、全体をリードする役割を果たされていました。

判決には来日することが出来ませんでした、ハルモニ達を結集させ裁判まで立ち上げられたことは、大変な労苦を伴われた事と思います。金文淑さんでしたからこそ、なし得たのではないのでしょうか。

裁判が一段落したら、釜山に金文淑さんを尋ねてみたいと思っていましたが、実現することが出来ませんでした。

この度、金文淑さんの訃報を聞き、残念な気持ちでいっぱいです。金文淑さんの果たされた功績を、私達は忘れる事はありません。

## 金文淑さんに感謝！

MJ

関釜裁判を支援する会の交流会で初めてお会いした金文淑さんは、私の取り皿に料理をよそってくださった方です。

支援する会に出会って間もない頃の私は、韓国についてその歴史も現在の状況もほとんど知らないという、外見に加えて頭の中身までもぼんやりとした状況でした。

会の方々はどう接してよいのやらまだあまり分からず、ましてや、金文淑さんや原告の方々とも急に仲良くなれるはずも当然なく、しかし、せっかく交流会に参加させていただいたからには、接客や配膳はできるなどという自己満足の範疇で、大皿料理を運んだり、参加者のお皿に取り分けたり等で関わっていました。

金文淑さんの様子も、もちろんちょくちょく見て、飲み物は足りているか、食や話はすすんでいるか、と意識しつつも、大きな声や議論が苦手な私にとっての金文淑さんは、「はっきりとした声で、しっかりと主張できる人」で、言い換えると、「ちょっと近寄りがたい人」なのでした。

そんな中、彼女の近くを「後ろ通りますね～」などと言いつつ、こそっと膝行しようとしたところ、「あなた、ちょっと、ここに座りなさい!」と小さく、しかし、はっきりとお声をかけられ、彼女の隣の席をビシッと指さされた時には、そのまま尻餅をつきそうなほどに驚いたことです。

けれども、金文淑さんは、これも食べなさい、あれも食べなさい、ビールがいいかお茶がいいかと、あれやこれやと親切にしてくださいました。また、(詳しい内容や言葉はもう覚えていませんが)「会の方々感謝している。でも何だかうまいかない。」というようなことを、ぼつぼつとお話されました。

それに対して、ほろ酔いは一瞬で覚めたにもかかわらず猛烈に緊張したままの私は、「ああああの、はあ…はい、どうも、あざっす。(ありがとうございます。)」とか何とか、わけのわからないお返事の上、両手で杯を受け、取り分けていただいてさらに美味しい料理をいただいておりました。

ただ、文淑さんを横目でちらっと拝見し、そのあまりの照れくさそうな顔に、思わず吹き出しそうになり、なおかつ、危うくそうせずつにすんだことへの安堵もまた、強く印象に残っています。

この後の福岡や下関や、各地での会での関わりも、基本的に原告皆さんの荷物持ちや日本での簡単な案内等の関わりで私は参加していたので、金文淑さんと意見交換や議論はしたことはありませんし、「ちょっと近寄りがたい人」の印象は、そのままでした。

でも、あの交流会で一緒に飲み食べ、お話いただいたときの彼女を包む穏やかな空気を、忘れることはできません。

そのためでしょうか…彼女の訃報のご連絡をいただいた一瞬に思い出したのは、彼女の優しい表情や、参加者皆さんへの細やかなお心遣いなのです。

やはり、ほとんどの人は、他者の優しい心や、親切な心に接すると、自らも優しく親切な気持ちになるでしょうし、私も同様です。

金文淑さん、ほんのひと時でも、関わり合いいただいて、ありがとうございます。

(そうして、交流会のあのとき、たとえ吹き出してしまっても、それはそれでよかったのかな…などと思うと、今もそれこそ吹き出しそうになったりもするのです。)